西浮通信

令和４年２月２８日
ＮＯ．３７８
東京都北区立西浮間小学校
校長　小島　みつる

チャレンジし続ける人に

校長　小島　みつる

暖かな日差しに春の訪れを感じる今日この頃、いよいよ今年度最後の月を迎えました。

先日、６年生は一泊二日の日光高原学園に行くことができました。今年度も「我慢」の多い１年でしたが、６年生だけでも宿泊行事ができたことをとてもうれしく思います。まもなく卒業を迎える６年生は、家族や地域の皆様の温かい見守りの中で大きく成長しました。そして、たくさんの「思い出」を心に刻むことができたのではないかと思います。心にしみる良い思い出も、辛い嫌な思い出もあったことと思います。辛い嫌な思い出は無ければ無い方が良いのですが、その辛さや苦しさを受け止め直せば、かって自分を強くし、心を広くしてくれます。思い出は心の中で生き続け、これからの人生に生きる知恵と勇気を与えてくれます。６年生にとって残りわずかの小学校生活ではありますが、下級生の目標となる存在としてやり残すことなく頑張り、夢と希望と自信をもって中学に進学してほしいと思います。

さて、コロナ禍の今、何が起こるかわからない、当たり前が当たり前でなくなり正解が分からない時代となりました。そのような時代だからこそ、自分で考えて判断し、行動する力がより必要です。判断するためには、自分の考えを分かりやすく表現し、周りの人たちに伝え、一緒に考えていくことが必要でしょう。自分だけが得をするような、または自分だけが損をしないような考えでは受け入れてもらえず、それでも主張し続ければ孤立してしまうかもしれません。自分にとってもみんなにとっても良い方法を考え、その実現のために行動していく力が必要なのです。その力を伸ばすためにはチャレンジすることが大切です。子供たちにはチャレンジャーになってほしいと願っています。チャレンジ精神を高めるためには、小学校時代には、出来るだけ多くの失敗を経験してほしい。そして、失敗を恐れず、他人の失敗にも寛容な人になってほしいと思います。

マスクで顔の半分を覆うことが「当たり前」になっている今、思いも半分しか表現できず、自分の思いを伝えられていないのに相手の思いばかり気にしていて、友達づきあいに躓いたり疲れたりしている子供が増えたように感じます。人の目を気にすることで、失敗を恐れて自分から行動できずにいます。「人の目」のなかには、お母さん、お父さんの「目」もあるのではないでしょうか？

今、子供の時の失敗に目くじらを立てて（親にとっての）正しい行動ばかり求めるのではなく、日頃から子供をしっかり見て、子供の関心事に関心をもち、「あなたはどう思うの？」と子供の考えを聴き、自分から考え表現できる場が家庭にあることが大切だと思います。子供自身が自分で考え行動したことに対して、短い言葉でも、「ありがとう」「うれしい」「助かった」「大丈夫」などの心が込められた一言と愛情のこもった笑顔があれば、その言葉と思いは子供の心で輝き大きな自信と支えになることでしょう。

この１年間で子供たちは毎日小さなチャレンジを続け、力を伸ばしてきました。失敗もありましたが、自分の力、周りの人たちの力で乗り越えてきました。子供の成長を振り返る際には、私たち大人がどれだけチャレンジの手助けができたか、どれだけ心を込めた言葉を伝えることができたかを振り返りたいものです。

令和３年度も残すところあとわずかとなりました。保護者の皆様、地域の方々から本校にご理解ご支援いただきましたことに心から御礼申し上げます。ありがとうございました。